

## 中国産クリから発見された *Curculio* 属4種について

真 崎 誠

横浜植物防疫所調査研究部害虫課

Four Species of the Genus *Curculio* Intercepted on Chinese Chestnut. Makoto MASAKI (Division of Entomology and Nematology, Yokohama Plant Protection Station). *Res. Bull. Pl. Prot. Japan* 21: 81-84 (1985)

### ま え が き

毎年、中国産のクリが大量に輸入され、これから発見された害虫は、シギゾウムシ類、クリミガ、モノゴマダラメイガ等であった。これまでに中国産クリから発見されたシギゾウムシ類は、多くがクリシギゾウムシ *Curculio dentipes* (ROELOFS) と報告されている(農林省植物防疫所, 1976; 農林水産省植物防疫所, 1980)。また、一部は *Curculio* sp. と報告されている(森田征士, 1972)。1983年に神戸植物防疫所及び横浜植物防疫所東京支所晴海出張所から同定依頼を受けたもので、中国産クリから発見されたシギゾウムシ類は、それぞれ上翅の紋が異なる4種の *Curculio* 属のゾウム

シであった。そこで今後の植物検疫の一助として、以下に4種の形態を紹介する。

なお、体長は頭部先端から腹端までの長さで示し、吻は体長に含めなかった。また、個体数が少ないことから文献上の体長を( )に示した。

本文に入るに先立ち、同定並びに貴重な御助言を賜った九州大学農学部森本 桂博士に厚く感謝の意を表す。

*Curculio davidi* FAIRMAIRE (Fig. 1)

体長7.0-7.2 mm (7.0 mm 前後; 黄孝运, 1982)。地色は黒色~黒褐色。触角及び跗節は赤褐色。前胸前側縁, 前胸背後角, 上翅基部及び上翅中央には白紋がある。上翅には2対の白色横帯があり, 前方の白帯は基

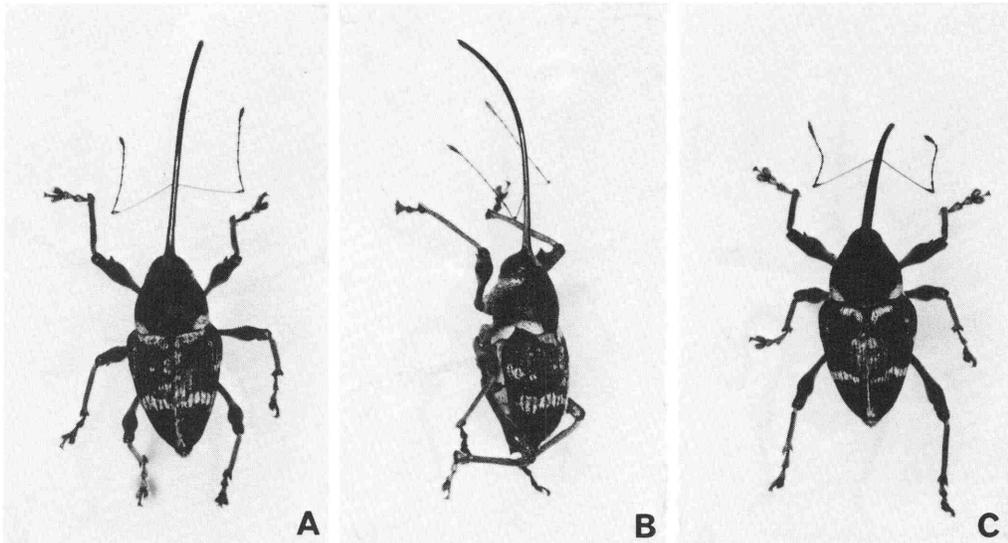


Fig. 1. *Curculio davidi* FAIRMAIRE. A: Female (dorsal view). B: Female (lateral view). C: Male (dorsal view).

部から2/5の第6間室から翅縁の間に、後方の白帯は3/5の第1間室から第9間室の間にある。会合線の傾斜部には半ば直立した白色の鱗毛がある。前胸背板は密に点刻される。小楯板は鱗片で覆われず地色の黒色である。腹面は白色の鱗片で密に覆われる。各腿節には大きな1個の歯状突起がある。

雄成虫：吻は短く、体長の約1/2。吻は中央から先端にかけて下方に強くわん曲する。触角はほぼ吻の中央につく(Fig. 2)。触角柄節は第1~7中間節を合わせた長さとはほぼ等長。第2中間節は第1中間節と等長。交尾器は先端に向かって狭まり、先端は細く短く突出する(Fig. 4)。

雌成虫：吻は体長より長い。吻の先端1/3は強く下方にわん曲する。触角は吻の基部1/3につく。触角柄

節は第1~3中間節を合わせた長さよりも長く、第1~4中間節を合わせた長さより短い。

本種は、中国では栗実象または板栗象虫と呼ばれ、江蘇省、安徽省、福建省、江西省、河南省等に広く分布し(黄孝运, 1982; 中国林业科学研究院, 1983)、我が国のクリシゾウムシ *Curculio sikkimensis* (HELLER) と同様にクリを加害する最も重要なゾウムシである(Morimoto, 1981; 中国林业科学研究院, 1983)。

#### *Curculio bimaculatus* (FAUST) (Fig. 3)

体長6.6-7.8 mm。地色は黒褐色。吻及び触角は赤褐色。体表面は黄褐色の鱗毛で密に覆われる。腹面は灰黄白色の鱗片で密に覆われる。上翅には1対の黒紋があり、その後縁に灰白色の横帯がある。上翅点刻列の各点刻には黒紋部を除き、1個の灰黄白色の鱗片がある。会合線の傾斜部には半ば直立した褐色の鱗毛がある。小楯板は白色の鱗片で密に覆われる。前胸背板には、やや斜めに走る多数の縦皺があり、被毛の間から見える。各腿節には1個の歯状突起がある。

雄成虫：吻は短く、体長の約1/2。吻は先端で下方にわん曲する。触角は吻の先端1/3につく(Fig. 2)。触角柄節は、第1~7中間節を合わせた長さとはほぼ等長。第2中間節は第1中間節と等長か短い。交尾器は先端で強く狭まる(Fig. 4)。

雌成虫：吻は長く、体長とはほぼ等長。吻は中央から先端にかけて下方にわん曲する。触角は基部1/3につく。触角柄節は第1~4中間節を合わせた長さとは等長。

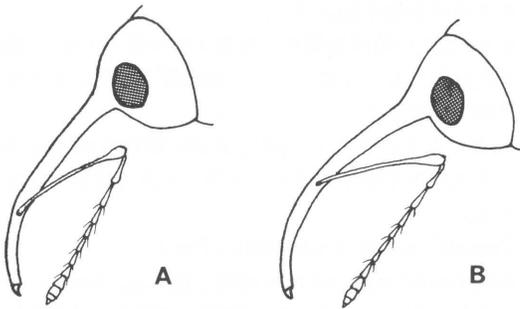


Fig. 2. Head lateral aspect. A: *Curculio bimaculatus* (FAUST), male. B: *Curculio davidi* FAMAIRE, male.

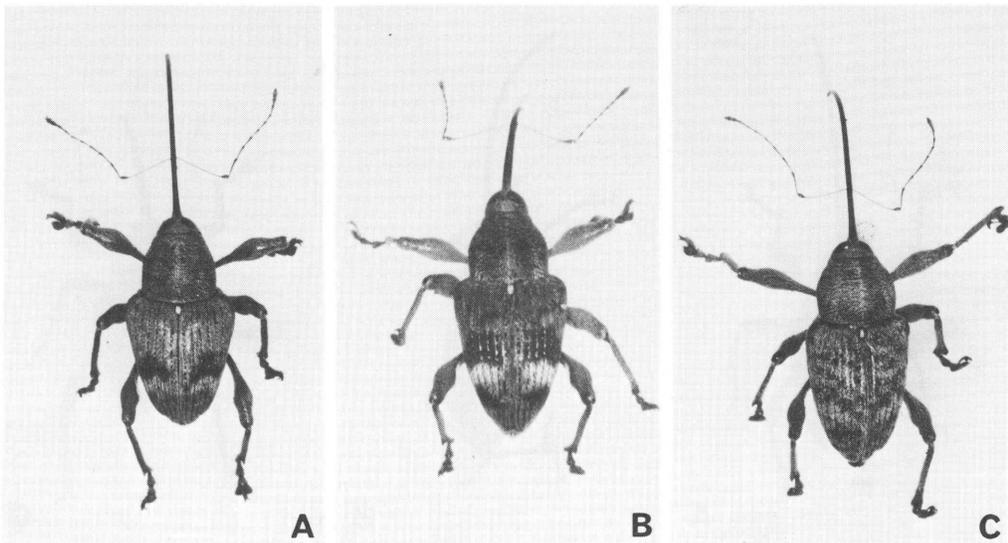


Fig. 3. A: *Curculio bimaculatus* (FAUST), female. B: *Curculio nigromaculatus* KONO, male. C: *Curculio sikkimensis* (HELLER), female.

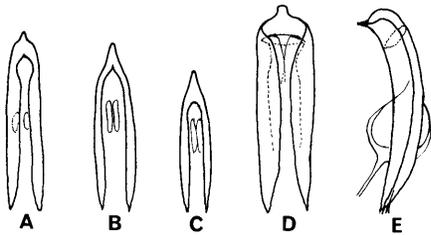


Fig. 4. Penis. A: *Curculio davidi* FAIMAIRE. B: *Curculio bimaculatus* (FAUST). C: *Curculio nigromaculatus* KÔNO. D: *Curculio sikkimensis* (HELLER) (dorsal view). E: *Curculio sikkimensis* (HELLER) (lateral view).

第2中間節は第1中間節より短い。

*Curculio nigromaculatus* KÔNO (Fig. 3)

クロモンシギゾウ

体長 5.5 mm (6.5 mm; Kôno, 1930)。地色は黒褐色。吻及び触角は赤褐色。腿節、脛節は基部及び先端部を除いて黄褐色。体表面は黄褐色の鱗毛で密に覆われる。腹面は白色の鱗片で密に覆われる。上翅には2対の黒紋があり前方の紋は四角形状で大きく、後方の黒紋は三角形状で小さい。黒紋の間は白色の横帯となる。上翅点刻列の各点刻には、黒紋部を除き、灰白色の鱗片がある。会合線の傾斜部には半ば直立した褐色の鱗毛がある。小楯板は白色の鱗片で密に覆われる。前胸背板にはやや斜めに走る多数の縦皺があり、被毛の間から見える。各腿節には1個の歯状突起がある。

雄成虫：吻は短く、体長の約1/2。吻は先端で下方にわん曲する。触角は吻の先端1/3につく。触角柄節は第1~7中間節を合わせた長さとはほぼ等長。第2中間節は第1中間節より短い。交尾器は先端で強く狭まる (Fig. 4)。

雌成虫は得ることができなかった。本種はKôno (1930)によって、台湾から得られた1頭の雌で新種記載されている。それによると、吻は細く、頸楯と翅鞘を合わせた長さとはほぼ等長であり、中央から前方は強くわん曲する。触角の第1中間節は第2中間節より明らかに長く、3節は2節より短い (Kôno, 1930)。また、本種に類似し、上翅に2対の黒紋と白色横帯がある *Curculio haroldi* FAUST が中国産のクリから記載されている (Chittenden, 1928) が、森本 (私信) によれば、それぞれの標本が多数集まれば、雄の交尾器を調べることにより、*nigromaculatus* = *haroldi* = *bimaculatus* となる可能性があるかも知れないとのことである。

*Curculio sikkimensis* (HELLER) (Fig. 3)

クリシギゾウムシ

体長 6.4-8.2 mm (6-10 mm; 森本ら, 1984)。地色は赤褐色。触角、吻及び肢も同様に赤褐色。体表面は黄灰色の鱗毛で覆われる。腹面は灰白色の鱗毛で覆われる。上翅にはまだら様の紋がある。上翅点刻列には短毛がある。小楯板は白色鱗片で密に覆われ、両側は隆起線で縁どられる。前胸背板は密に点刻される。各腿節には1個の歯状突起がある。

雄成虫：吻は短く、体長の約1/2。吻は中央から先端にかけて下方にわん曲する。触角は吻の中央近くにつく。触角柄節は第1~5中間節を合わせた長さとはほぼ等長。触角第2中間節は第1中間節と等長。交尾器の先端はまるく、先端中央が長方形に短く突出する (Fig. 4)。

雌成虫：吻は長く、体長とはほぼ等長。吻は中央から先端にかけて強くわん曲する。触角は吻の基部1/4につく。触角柄節は第1~3中間節を合わせた長さより短い。触角第2中間節は第1中間節より短い。

本種は、我が国ではクリの重要な害虫として知られているが、森本 (MORIMOTO, 1981) によって *Curculio sikkimensis* (HELLER) と整理されるまで、日本では、*Curculio dentipes* (RELOFS) とされていた。*C. dentipes* (コナラシギゾウムシ) は、ナラ類、カンワ等の実に産卵し、クリ属 (*Castanea* spp.) の実には産卵しない (MORIMOTO, 1981) ことから、植物検疫資料等に中国産のクリから発見されたことと報告がある *Curculio dentipes* (ROELOFS) は本種のことであろうと考える。

## 参 考 文 献

- CHITTENDEN, F.H. (1928) An injurious nut curculio (Coleoptera: Curculionidae). Proc. Ent. Soc. Wash. 30: 69-70.
- 中国林业科学研究院主編 (1983) 中国森林昆虫. 中国林业出版社. 北京, 1107 p.
- KÔNO, HIROMICHI (1930) Langrüssler aus dem Japanischen reich I. Insecta Matsumurana 5: 1-31.
- 森田征士 (1972) 中国産天津栗輸入シーズンを迎える. 九州植物防疫 347: 3.
- MORIMOTO, KATSURA (1981) On some Japanese Curculioninae (Coleoptera: Curculionidae). Esakia 17: 109-130.
- 森本 桂, 林 匡夫, 木元新作, 編者 (1984) 原色日本甲虫図鑑 (IV). 保育社 大阪 438 p.
- 農林省植物防疫所 (1976) 植物検疫で発見された病害虫目録 (植物検疫資料第3号), 160 p.

- 
- 農林水産省植物防疫所(1980) 植物検疫で発見された  
病虫害目録(植物検疫資料第7号), 164 p.
- 黄 孝运(1982) 为害树木种実 Curculio 属象虫の初  
歩研究. 中国林业科学研究院林业研究所研究報告 1:  
55-57.